

平成24年度未来の京都創造研究事業 研究だより

第3号

本事業は、大学の若手研究者等と京都市の担当部署が協力しあって調査・研究を進めることで、京都市の政策や事業に生かすことのできる、より実践的な研究成果の獲得を目指して昨年度から公益財団法人 大学コンソーシアム京都が京都市と共同で行っている事業です。

前回の第2号では、指定課題「地蔵盆などの地域の伝統行事の現状と地域コミュニティ活性化への影響」の調査・研究の進捗を報告しましたが、今回の第3号においては、自由課題に取り組んでおられる2名の研究代表者から、それぞれ調査・研究テーマの進捗を報告していただきます。

「京野菜（地場農産物）でつながる洛中洛外ネットワーク：地産地消の過去・現在・未来」

同志社大学経済学部助教：三俣 延子

地産地消の観点から、京都市内を中心とした地場農産物（京野菜）の生産・流通・消費の歴史と、「振り売り」を中心とする現状分析を通して、かつての洛中洛外のように農産物によって結ばれる食のローカルなネットワークの再構築について検討します。

研究代表者のプロフィール

専門は環境史・環境経済学。18～20世紀のイギリスと日本を事例に、持続可能な都市と農業のありかたについて研究しています。家事・育児を通じて食べることの大切さを実感したことからこの研究を始めました。日本土壌肥料学会編『文化土壌学からみたリン』（共著）。

調査・研究の状況

1200年の都市としての歴史を持つ京都の町は、日本で最も長い都市農業（都市近郊農業）の歴史を持つ町でもあります。その流通面に関する伝統は、農家の奥さま方による「振り売り（あきない）」として受け継がれています。今回、数名の上賀茂の農家さんにお話をうかがう機会を頂戴しました。さまざまな変遷を遂げつつも、高度経済成長期を経てもなお「振り売り」の伝統が受け継がれていることがわかりました。

主な取り組み内容

- ・ 振り売り農家への聞き取り調査
- ・ イギリスでのファーマーズ・マーケット等の現地調査
- ・ 文献調査
- ・ 先行研究者へのヒアリング
- ・ 生産者及び消費者アンケートの検討 等



とれたての野菜が都市農業の魅力



円町での振り売り（昭和50年頃）

今後の抱負

京都の都市農業は、他の先進国でも類を見ないほど、野菜の種類や栽培方法、販売方法に至るまで、その伝統を継承しています。地産地消やローカル・フードの重要性が再認識される今、戦後の「振り売り」の変遷をたどりながら、近年盛んになっている「直売所」の取り組みや消費者の声も参考に、これからの都市と農業の持続的（サステイナブル）な関係について検討したいと思います。

「二条駅周辺の再開発とまちづくり ～『立地創造』の視点から～」

立命館大学文学部准教授：加藤 政洋

1990年代以降の大規模な再開発事業によって二条駅とその周辺では、かつての「駅前」「駅裏」といった空間的な諸関係が全面的に刷新されました。そして2000年代に入ると、同地区の西側では町家を転用した店舗の集積が進み、結果としてこれまでにない集客力を備えた地区となり、いまでは内発的なまちづくりの実践も見られるにいたっています。本研究は、この一連の過程を既存の立地不利の条件を克服して場所の魅力を創出した「立地創造」として捉えることで、まちづくりの新たな可能性を探ります。

研究代表者のプロフィール

立命館大学文学部で「京都市学」を担当しています。これまで各地の都市（大阪・神戸・那覇）や花街を調査・研究してきました。現在は築80年くらいの借家に暮らしながら、学生たちとともに町家に関わる文化研究・フィールドワークを実践しています。

調査・研究の状況

主な取り組み内容

- ・二条駅界限まちづくり実行委員会ならびに町家ショップの事業主さんへのヒアリング
- ・地図、空中写真、文献等の調査と整理
- ・二条駅周辺開発地区の記録写真の分析とデータベース化
- ・「二条駅かいわいワイワイフェスティバル」の調査 等

京都市建設局都市整備部整備推進課より二条駅周辺の再開発過程を定点観測した写真をお借りしました。今からではとても想像できない風景が浮かびあがるとともに、地域の変容ぶりを実感しました。これらを手がかりに、過去の景観を復原しつつ、未来志向型のまちづくりのありようを探究していきたいと思ひます。



「二条駅かいわいワイワイフェスティバル」の様子(10/14)

今後の抱負

現在、地図・写真・空中写真をベースに、二条駅周辺地域の景観復原をすすめています。地域変容の過程を視覚的に表現した成果を、対象地域内の店舗で地元の方々や来街者にご覧いただく機会をぜひとも持ちたいと考えております。また最終的に立地創造のモデルとしてまちづくりの文脈に定位できるような事例研究に仕上げたいと思ひます。

編集後記

自由課題は若手研究者の自発的な提案をベースにした、挑戦的な調査・研究です。今回紹介した2名はいずれも地に足の着いた調査を意欲的に実施されています。最終的な成果が楽しみです。

ご意見やご感想がありましたら、以下の問い合わせ先まで、お気軽にお寄せください。

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部 シンクタンク事業
担当：水田（みづた）、鳴海（なるみ） E-mail: mirainokyoto@consortium.or.jp
Tel: 075-708-5803 Fax: 075-353-9101